

## 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：中島威夫

事業名	道央圏連絡道路(一般国道337号) <small>みはら</small> 美原バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局	
起終点	自：北海道江別市江別太 至：北海道江別市美原	延長	3.9 km			
<p><b>事業概要</b> 道央圏連絡道路(一般国道337号)は、千歳市を起点として小樽市に至る延長約80kmの地域高規格道路であり、国際的な交流拠点である新千歳空港、特定重要港湾苫小牧港、重要港湾石狩湾新港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る重要な役割を果たす路線である。 このうち美原バイパスは、石狩川を美原大橋で渡河する延長3.9kmの道路で、平成元年に事業化され、整備が進められている。</p>						
<p>H元年度事業化 H-年度都市計画決定 H4年度用地着手 H7年度工事着手</p>						
<p>全体事業費 約598億円 事業進捗率 93% 供用済延長 0km</p>						
<p>計画交通量 17,200台/日</p>						
費用対効果 分析結果	<p>B/C (事業全体) 1.2</p> <p>(残事業) 14.7</p>	<p>総費用 (残事業)/(事業全体) 44/546億円</p> <p>事業費：32/534億円</p> <p>維持管理費：11/11億円</p>	<p>総便益 (残事業)/(事業全体) 643/643億円</p> <p>走行時間短縮便益：534/534億円</p> <p>走行費用減少便益：86/86億円</p> <p>交通事故減少便益：23/23億円</p>	<p>基準年 平成15年</p>		
<p><b>感度分析の結果</b> 事業全体について感度分析を実施</p> <p>交通量変動：B/C=1.3(交通量+10%) B/C=1.1(交通量-10%)                  事業費変動：B/C=1.1(事業費+10%) B/C=1.3(事業費-10%)                  事業期間変動：B/C=1.1(事業期間+20%) B/C=1.2(事業期間-20%)</p>						
<p><b>事業の効果等</b> ・国土・地域ネットワークの構築(地域高規格道路(道央圏連絡道路)の位置づけあり) ・個性ある地域の形成(河川により一体的発展が阻害されている地区(美原地区)を解消する) 他7項目に該当</p>						
<p><b>関係する地方公共団体等の意見</b> 江別市を始めとする関係5市3町の首長で構成される道央圏連絡道路整備促進期成会・関係6市1町3村の首長で構成される北海道石狩地方開発促進期成会より、毎年事業促進の要望を受けている。</p>						
<p><b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> ・平成14年10月に「江別河川防災ステーション」がオープン。 ・平成15年1月に美原地区に江別ライスセンター「瑞穂の館」が完成し、豊幌地区や江別太地区から米が搬入されている。</p>						
<p><b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成15年度に美原大橋の本体工が完成。</p>						
<p><b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 平成16年度に全線供用の予定である。</p>						
<p><b>施設の構造や工法の変更等</b> 再生骨材の活用、浚渫土の活用、耐候性鋼材の使用によるライフサイクルコストの縮減、軟弱地盤における真空圧密工法の採用等によりコスト縮減を図っている。</p>						
<p><b>対応方針</b>：事業継続</p>						
<p><b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>						
<p><b>事業概要図</b></p> 						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。